

四季を通して出現し、冬期から春期に多く出現した。形はニシン目シラスに似ており、背鰭条数が少なく、腎鰭条数が多い。今回出現したのは2種類で、1種は背部および腹部に黒色素のやや大型の点列があり、他種はそれがない。O-3、O-4、A-1、A-5に出現し、全長範囲は3.0-21.4 mm。

11. Congridae アナゴ科 (2回出現、34尾)

Rhynchocyba sp.

ギンアナゴ属 (2回出現、34尾)

冬期に出現した、A-3に33尾、O-3に1尾出現し、全長範囲は48.7-70.7 mm。全長組成を図-12に示した。モードは50.1-52.0 mmにある。

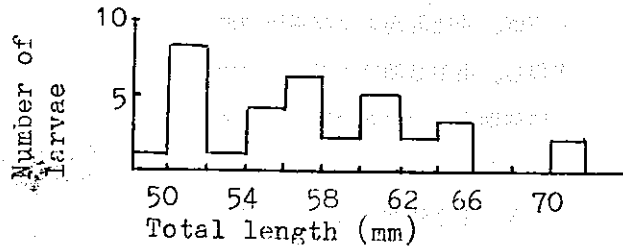


Figure-12 Total length composition of Rhynchocyba sp.

12. Muraenesocidae ハモ科 (1回出現、1尾)

Muraenesocidae gen. sp. ハモ科種不明 (1回出現、1尾)

1973年1月にO-3で全長10.0 mm 1尾が出現した。

13. Ophichthidae ウミヘビ科 (1回出現、1尾)

Ophichthidae gen. sp. ウミヘビ科種不明 (1回出現、1尾)

1973年11月、O-3に全長25.5 mm 1尾が出現した。前半部体側面および腹面に粗い黒色素胞があり、また後半部体側面にも黒色素がある。

14. Other Leptocephal larvae レプトセファルス幼生 (13回出現、22尾)

四季を通して出現し、O-6で全個体の半分が出現した。全長範囲は21.1-81.0 mm、平均53.6 mmであった。

15. Belonidae ダツ科 (11回出現、13尾)

Ablennes hians (CUVIER et VALENCIENNES)

ハマダツ (3回出現、3尾)

1973年8月にB-5に全長36.0 mm 1尾、1974年5月、B-8に全長23.8 mm 1尾、A-10に全長17.7 mm 1尾が出現した。ダツ科の稚仔魚は沿岸および湾内に多く出現した。

Tylosurus leiurus (BLEEKER) タイワンダツ (4回出現、6尾)

1973年7月、A-1に全長範囲13.0-13.3 mm、3尾、1974年9月、B-7に全長13.0 mm 1尾、B-8に全長14.0 mm、1尾、12月のA-5に全長15.3 mm、1尾が出現した。

Tylosurus giganteus (TEMMINCK et SCHLEGEL) オキザヨリ (2回出現、2尾)

1974年5月、A-10に全長26.2 mm、1尾、7月のO-1に全長22.0 mm、1尾が出